

銅島怪猫傳 (八卷)

帝キネ

時代映畫

原作脚色者

松平昌之

監督者

長尾史織

撮影者

實谷口

主演者

川延松

紹介

第三百三十二號

猫騒動——それ自身が既に古い時代の背景を持つてゐる。だから数多くの時代劇中で、それが既に最早、單に時代劇として以外に何等の價値を有しない。幽霊の存在を骨子とした時代劇よりも尙、架空的である。だから此の作品に映畫價値を附するなら興味以外何物でもない。随つて興味の力點を如何に考慮してゐるかが問題で、その點、仲々周到な手法を用ひ、觀客を飽かせない様につさめてゐる。總てが演劇的内容と講談的構成で終始してゐながら、而も多分の興味を持つてゐた點大いに買ふべきである。珍奇な技巧はないが、手固く進めてゐる長尾監督の老練さを認める。但し猫のトリックにもつと工夫が欲しかつた。

——水町 青磁——

(寫眞版紹介號)
興行價値——地方向き。そして大いに喜ばれる内容を持つてゐる。都會では少し失笑を買ふ。
(五月十五日 大阪芦邊劇場、神戸相生座封切)